

計画策定に伴う団体ヒアリングについて

前期（第6期計画）のヒアリング状況

1. 時期・・・平成25年12月～平成26年3月（計16回）
2. 対象・・・16団体（老人クラブ、まちづくり協議会、民生児童委員協議会、連合婦人会、いずみ会、市民ボランティア、シルバー人材センター、介護サービス事業所）
3. 方法・・・各団体の構成員に対して、特定のテーマに基づき質問し、自由に発言するグループインタビュー形式により実施。

4. テーマ項目

- 1) コミュニティサロンなど交流の場づくり
- 2) 就労や生きがいづくり
- 3) 住民主体の介護予防活動
- 4) ボランティアによる生活支援
- 5) 見守り・孤立予防などの地域課題
- 6) 多様なサービスの提供や地域における高齢者の自立支援

5. ヒアリング結果

1) コミュニティサロンなど交流の場づくり

- ・世話人の負担が大きい。リーダーの人材育成が課題。
- ・男性や見守りの必要な高齢者の参加が課題。
- ・仲間との交流や役割を持った自主的活動等、魅力ある活動により生きがいづくりと継続性を持たせる工夫が課題。

2) 就労や生きがいづくり

- ・就農されている方が多く、生きがいとなっている。
- ・働きながら地域活動を行うことができるのが望ましいが、負担も多く、老人クラブ活動に消極的となっている。
- ・団塊の世代の方の活躍の場が重要。

3) 住民主体の介護予防活動

- ・介護予防の意識はまだまだ地域に浸透していない。
- ・「かとうまちかど体操教室」の参加者には効果がある。
- ・継続のために楽しみや目標が必要。

4) ボランティアによる生活支援

- ・生活支援サポーター養成講座やボランティア活動について周知して、元気な高齢者が生活支援に関わる機会が増えるとよい。

5) 見守り・孤立化予防などの地域課題

- ・普段からの相互の見守りは行っているが、閉じこもりや会員外の方の見守りが課題。
- ・高齢者自身の活動として登下校の見守りや防犯グループ等、地域で重層的な見守り支援が行える体制づくりが必要。

今期の計画策定に伴う団体ヒアリングについて（案）

(1) 目的

介護予防や生活支援サービス、地域での見守りや支え合いについての地域活動の現状や効果的な取組み、連携や協働のための課題等を把握することにより、計画策定の基礎資料とする。

(2) 方法

①生活支援体制協議体（3圏域）から地域課題や意見の報告を受ける。

※生活支援体制協議体の主なメンバー

区長、老人クラブ、民生児童委員、介護事業所、いずみ会、JA 女性会、
商工会女性部、学校関係等

②住民の意見をヒアリングできる機会を設ける。

(3) 実施時期

平成29年2月～平成29年5月

(4) 報告

第3回策定委員会でヒアリング結果の報告を行う。

